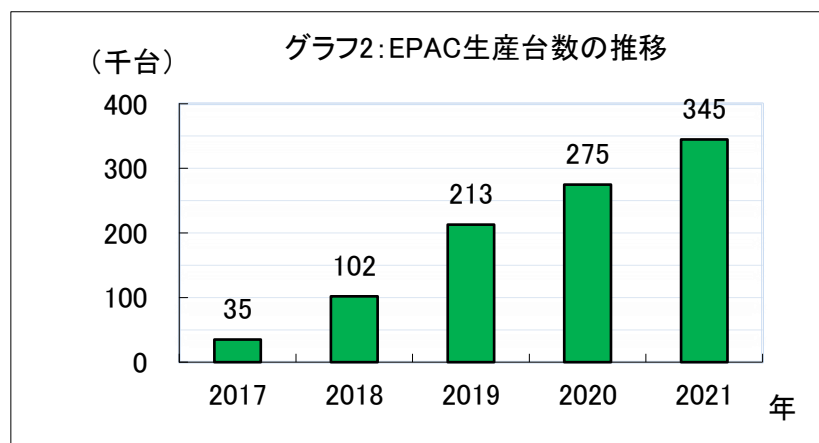
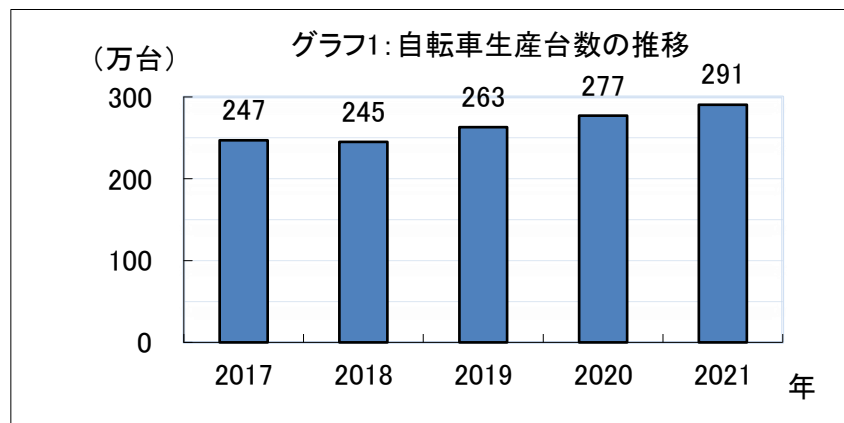


イタリア自転車市況－2021

1. 生産

イタリア自転車工業会(ANCMA)によると、電動アシスト自転車(以下「EPAC」という)を除く一般の自転車(以下「自転車」という)の2021年の生産台数は前年比4.9%増の291万台となった。イタリアの自転車生産は2001年以降200万台に留まっているが、ここ数年は微増ながらも増加傾向にあり300万台に近づきつつある。一方、EPACの生産台数は2019年の倍増、2020年の3割増に引き続き、2021年は前年比25.5%増の345千台となった。

ANCMAは「2021年の自転車生産は前年比約5%増を記録し、290万台以上の自転車が生産された。生産に関してはEPACも際立っており、前年比25%増となっている。自転車とEPACを合すると2021年は320万台以上の生産となり、前年比7%近くの増加をマークする成長産業であることを示した」としている。



2. 輸出入

2021年の自転車輸出台数は前年比21.1%増の178万台となった。国別輸出先の上位5カ国はフランス向けが77.6万台と前年同様最大で、台数も前年より3割近く増加した。次い

で、スペイン 27.8 万台、ベルギー 15 万台で、台数もそれぞれ前年より 2~3 割近く増加している。一方、ドイツは前年より 1 割減の 14.8 万台で、5 位にはハンガリーが入った。その他の輸出先を含め全体の 97.3% が欧州向けである。

2021 年の自転車輸入台数は前年比 29.1% 増の 56 万台となった。国別輸入元の上位 5 カ国は、ポルトガルからが 14.8 万台と前年同様最大で、台数も前年より 4 割増加した。次いで、ルーマニア 9.4 万台、中国 3.9 万台、オランダ 3.4 万台で、5 位にスリランカが入った。地域別では輸入の 7 割強が欧州からで、アジア地域からは 2 割弱となっている。

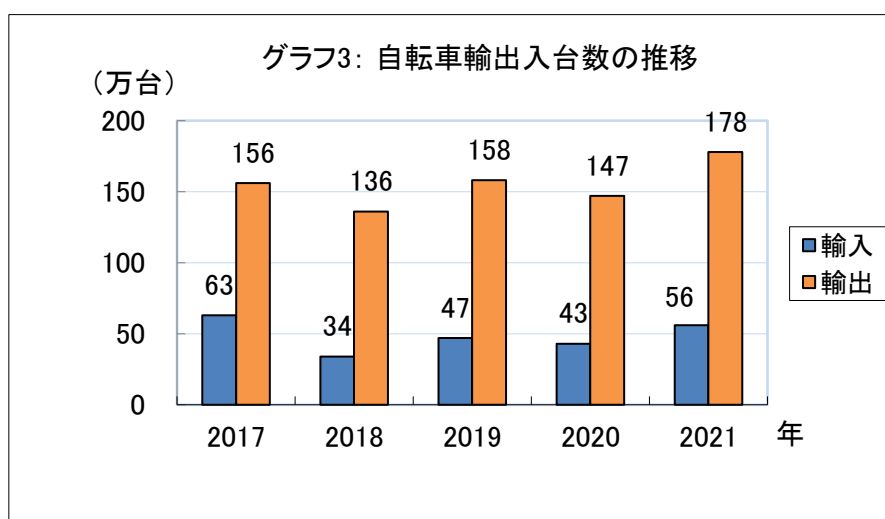
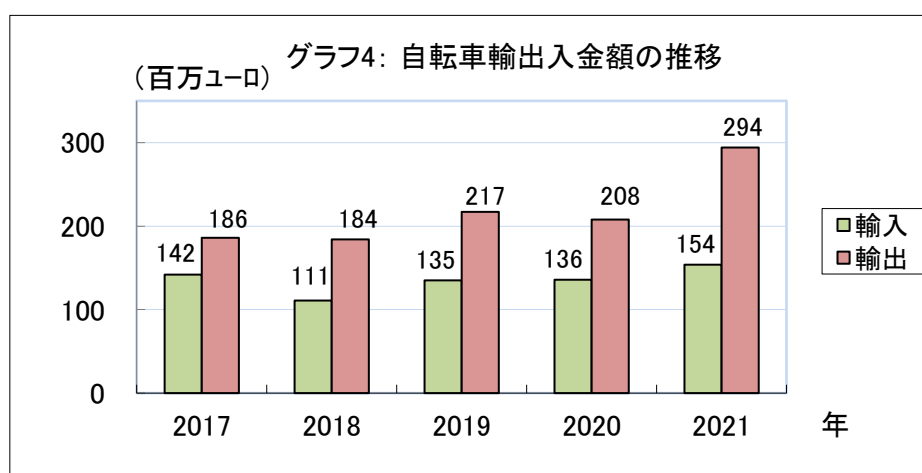


表1: 2021年自転車輸出入台数上位5カ国

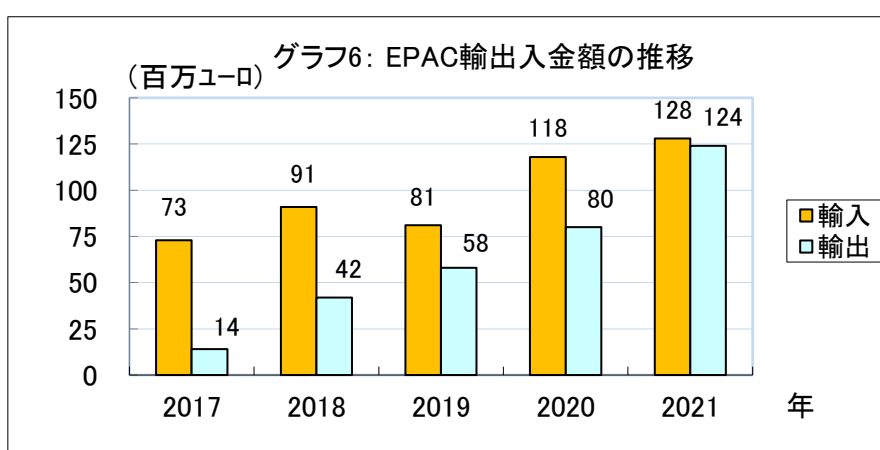
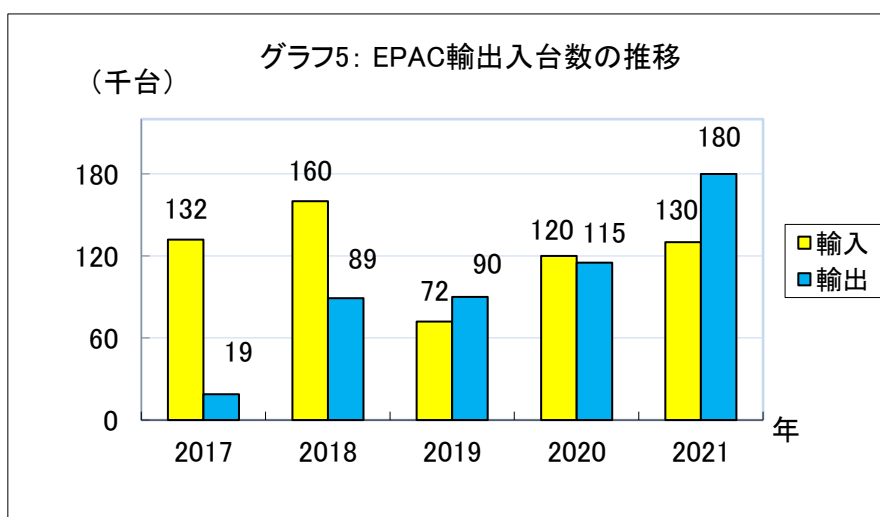
順位	輸 入			輸 出		
	国 名	台数(万台)	%	国 名	台数(万台)	%
1	ポルトガル	14.8	26.7	フランス	77.6	43.6
2	ルーマニア	9.4	16.9	スペイン	27.8	15.6
3	中国	3.9	7.1	ベルギー	15.0	8.4
4	オランダ	3.4	6.2	ドイツ	14.8	8.3
5	スリランカ	2.9	5.3	ハンガリー	2.7	1.5



2021年の自転車輸出金額は前年比41.3%増の294百万ユーロ(399億円「換算レート1ユーロ=137円」以下同じ)となり、自転車輸入金額は前年比13.2%増の154百万ユーロ(211億円)であった。輸出金額は前回の4.1%減に対し、2021年は4割強の増加に転じたほか、輸入金額も前回の0.7%の微増からさらに13%増と、自転車は輸出入ともに増加した。

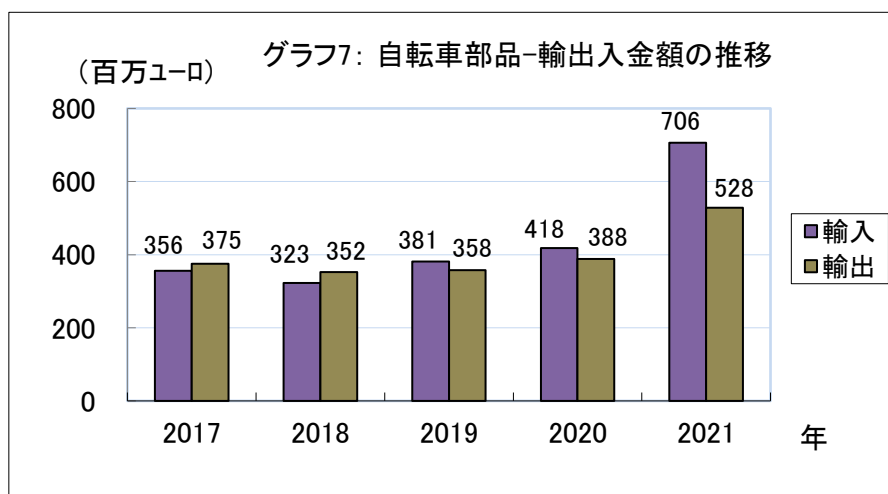
2021年のEPAC輸出台数は前年比56.5%増の180千台で、EPAC輸入台数は前年比8.3%増の130千台となった。金額ベースでは、EPAC輸出金額は前年比55.0%増の124百万ユーロ(170億円)、EPAC輸入金額は前年比8.5%増の128百万ユーロ(175億円)と、EPACも輸出入ともに増加した。

2021年の自転車輸出単価は前年より24ユーロ高い165ユーロ(22,605円)に上がったが、自転車輸入単価は39ユーロ安い277ユーロ(37,949円)に下がっている。EPAC輸出単価は前年より7ユーロ安い689ユーロ(94,393円)に下がり、EPAC輸入単価も前年より60ユーロ安い923ユーロ(126,451円)に下がっている。



2021年の自転車部品の輸出入について、輸出金額は前年比36.1%増の528百万ユーロ(723億円)、輸入金額は前年比68.9%増の706百万ユーロ(967億円)となった。自転車部品輸出金額は前回の7.1%増からさらに4割弱増加した。自転車部品輸入金額も前回の1.3%の微

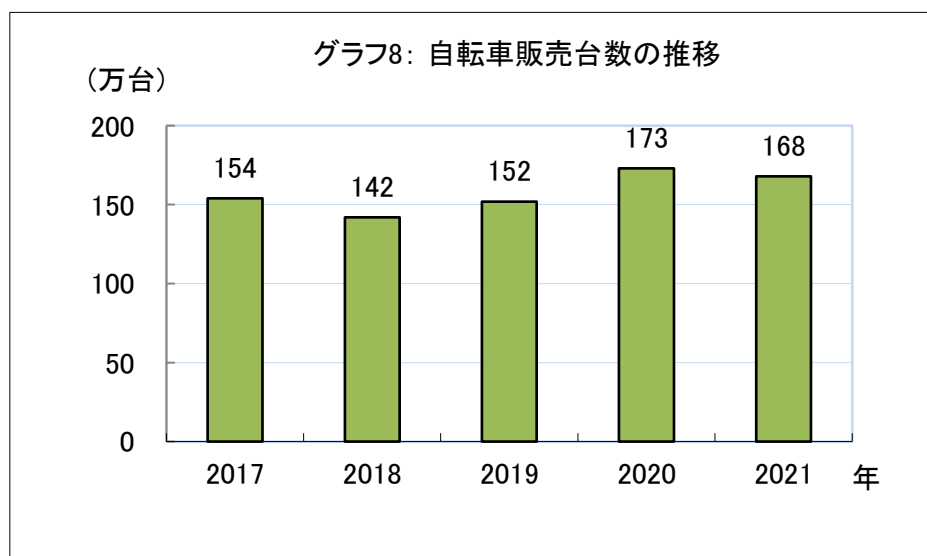
増から 2021 年は 7 割近くの増加と、自転車部品も輸出入ともに増加した。

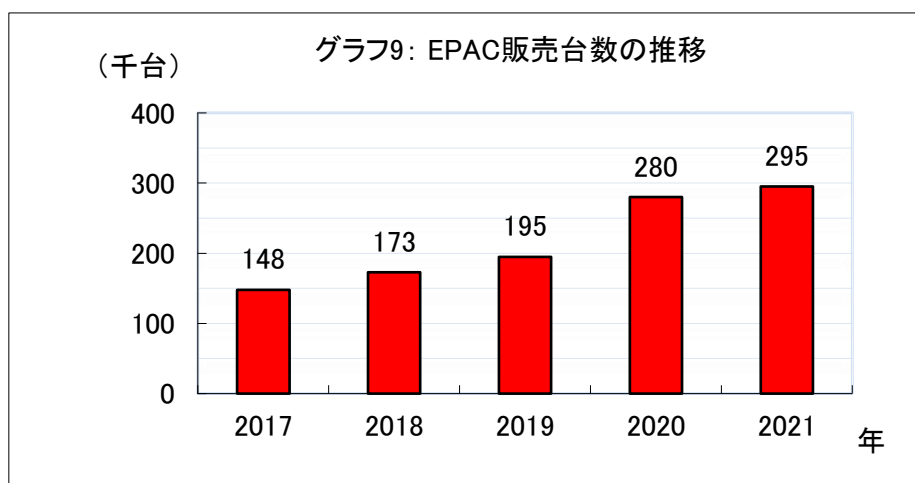


ANCMA は「輸出に関しては、台数ベースで自転車（前年比 21%増）、EPAC（前年比 56%増）共に 2 桁の成長を上げ、金額ベースでも自転車と EPAC を合わせて 418 百万ユーロ（前年比 45%増）となった。さらに重要なのは部品とコンポーネントの輸出額で、合計 528 百万ユーロ（36%増）に達している。これはイタリア自転車部品生産の卓越性を示しており、ハイエンドのイタリア伝統フレーム、ホイール、サドルがトレンドとなっている」としている。

3. 販売

2021 年の自転車販売台数は前年比 2.9%減の 168 万台に減少した。一方、EPAC 販売台数は前年比 5.4%増の 295 千台の微増となった。自転車と EPAC を合わせた全体の販売台数は 198 万台で前年比 1.7%減となった。自転車販売台数は前回の 13.8%増に対し、2021 年は 3%弱ながら減少した一方、EPAC 販売台数は前回の 43.6%増からさらに 5%増加したが、自転車と EPAC を合わせた全体の販売台数はわずかながらも 2%弱の減少となった。





ANCMA は「2021 年のイタリア自転車市場の売上高は、前年の記録的な数字に近づいている」として「イタリアの自転車への欲求は止まらず、自転車と EPAC 合せて 190 万台以上（前年比 2%減）が販売された。ポジティブなのは EPAC で前年比 5%増であった。また、生産、輸出入ともに増加している」と強調している。

また「サプライチェーンに影響を与える製品不足、世界的な供給困難、納入遅れはあったものの、これらはイタリア人の自転車に対する欲求を抑制するものではなかった。2020 年には 200 万台以上という記録的な台数が販売されたが、2021 年の市場も最終的には前年の数字に近い 197 万台と前年比僅か 2%減に相当する実績を残した」としている。

さらに「自転車販売は 168 万台とわずかに減少（前年比 3%減）したが、EPAC は堅調で 29 万台が販売されており、2020 年に対し前年比 5%増の成長を続ける健全な国内市場である。これは 2020 年のロックダウン後のダイナミックな需要に貢献することで達成された」と非常に肯定的な結果だとして「モビリティとレジャーのためのツールとしての自転車の特性はもっと評価されるべきで、自転車利用の推進、ユーザーの安全、サイクリングを目的としたイタリアの国際的なプロモーションを踏まえ、今後、自転車道の整備などにより大きな投資を検討していくべきである」としている。

以 上

統計出所：ANCMA